

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【海草振興局】種しょうが収穫調査を実施

令和5年11月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 種しょうが収穫調査を実施	
2. 紀美野町農林商工まつり農産物品評会	
3. 新規就農者研修（病虫害防除研修会）を開催	
4. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催	
II 那賀振興局	3-4
1. いちご秋ランナー採苗研修会を開催	
2. 紀の川市産業まつりでオーガニック弁当を販売	
3. 紀の川市環境保全型農業グループが地域内研修会を開催	
III 伊都振興局	5-6
1. 小学校でつるし柿作り体験を実施	
2. 第15回 大収穫祭 IN 九度山でかきをPR	
3. 各農業団体が橋本市まっせ・はしもとで地域農産物をPR	
4. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会を開催	
IV 有田振興局	7
1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）の児童が米づくり体験を振興局長へ報告（表敬訪問）	
2. 阪和自動車道吉備湯浅PAにおいて「有田みかん」及び「日本農業遺産」をPR	
V 日高振興局	8-9
1. みなべ梅郷クラブと西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が合同現地研修会を開催	
2. うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修会（せん定）を開催	
3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナーin日高）を開催	
4. 日高地方農業士連絡協議会リーダー研修会を開催	
VI 西牟婁振興局	10
1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】 ～ムカデ整枝+摘心処理樹のせん定研修会を実施～	
2. 女性農業者セミナーを開催	

Ⅶ 東牟婁振興局	11
1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほを設置～	
2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会が農産物即売会を開催	
Ⅷ 農林大学校	12
1. 1年生のインターンシップ研修	
2. 第4回農林大祭を開催	
Ⅷ 農林大学校就農支援センター	13
1. 令和5年度第2回UIターン就農相談フェアを開催	
X 経営支援課	14
1. 普及指導員に対する新技術習得研修を実施	

I 海草振興局

1. 種しょうがが収穫調査を実施

11月21日、和歌山市種生姜生産促進協議会（会員：和歌山市、JAわかやま、JAグループ和歌山農業振興センター、和歌山県（振興局農業水産振興課、農業試験場、果樹園芸課、経営支援課））が、種しょうがの収穫調査を行った。

種しょうがの栽培は、4月下旬から5月上旬に植え付けし、生育期間中は、協議会メンバーで毎月巡回指導を行ってきた。収穫調査では、収穫したしょうがの1株当たりの重さや茎数、茎の長さ等を測定した。また、種しょうがは、収穫量だけでなく品質も求められる。品質については、後日、県農業試験場にて乾物率を測定する予定である。今年は6月の台風2号の影響で栽培を断念したほ場もあったが、調査したほ場では順調に生育していた。今回の調査結果は、生産者と情報共有し、今後の栽培に活かしていきたい。



収穫調査の様子



調査する種しょうが

2. 紀美野町農林商工まつり農産物品評会

11月26日、4年ぶりに紀美野町農林商工まつりが開催された。それに伴う農産物品評会に、審査員として海草振興局農業水産振興課から3名が出席した。

JAながみねの営農指導員とともに、出品数119点の中から品目ごとにそれぞれの特性を踏まえながら、品質、大きさ、そろい等を基準に審査し、14の賞を選出した。

6月の気象災害があった中で出品された農産物はどれも見事であり、生産者の日々の努力がうかがえた。



審査の様子

3. 新規就農者研修（病害虫防除研修会）を開催

農業水産振興課では、新規就農者の農業技術と経営の向上を図るため、11月8日に農業試験場にて病害虫防除研修会を開催し、6名が出席した。

NOSA Iわかやま北部支所の松本課長より収入保険について説明があった後、農業試験場の井沼主査研究員が病害虫の種類や伝染方法、防除方法などについて講演した。講演では、「わらをマルチなどとして畑で利用しているがよいか。また、わらが出す菌に良い菌と悪い菌があるか」、「青枯病は土壤感染だと思うが感染した植物体の周辺を抜いたら他へうつらないか」、「土壤消毒をすると良い菌もいなくなってしまうためよくないと聞いたことがあるがどうか」など、出席者から積極的に質問があった。

ほ場見学では畑やハスモンヨトウのトラップなどを見学し、その後参加者間で話が盛り上がり、連絡交換をするなど横の繋がりができる良いきっかけにもなった。



井沼主査研究員の講演



ハスモンヨトウのトラップを見学

4. 環境保全型農業栽培技術現地研修会を開催

県では、環境保全型農業を推進することを目的に、毎年エコ農業を実践している生産者の園地を「エコ農業実践モデル園」に設定し、先進的な栽培方法や創意工夫をこらした取組について展示活動を行っている。

11月20日、海南市にある松田修一氏のモデル園において現地研修会を開催し、19名が参加した。研修会ではモデル園で温州みかんを栽培されている松田氏からエコ農業に取り組んだ経緯や栽培方法などについて説明を受けた。その後、参加者は園地を見学し、松田氏がせん定を実演した。松田氏は除草剤を使用しない栽培に加えて隔年交互結実栽培に取り組んでいる。参加者からは、「収量は慣行と比べてどうか」、「肥料成分がJAの基準より少ないが品質に問題はないか」などの質問があり活発な情報交換の場となった。



せん定の実演

Ⅱ 那賀振興局

1. いちご秋ランナー採苗研修会を開催

11月9日、那賀地方いちご生産組合連合会では、いちごの秋ランナーによる親株確保技術を普及させるための研修会を開催し、生産者16名、研修生8名、JA等関係機関8名が参加した。

初めに、JA紀の里営農指導課の森山調査役が研修会会場であるJA紀の里いちご農園の栽培概要について説明を行った。

次に、農業試験場環境部の井沼主査研究員がいちごの代表的な病気について講義を行った。参加者は炭そ病に罹病した葉のサンプルを手に取りながら、理解を深めていた。

最後に、那賀振興局農業水産振興課の嶋本副主査が秋ランナーからの採苗方法について講義を行った。秋ランナーから採苗する際のポイントや注意点について、実演を交えて説明した。参加者からは「どのような培土を使えばよいのか」、「薬散はどのタイミングであればよいのか」といった質問があった。また、「実演のおかげで資料以外の知識を得ることができてよかった」などの感想が聞かれた。

農業水産振興課ではいちごの安定生産を目的に、今後も那賀地方いちご生産組合連合会の活動を支援していく。



炭そ病サンプルを手に取り理解を深める参加者



秋ランナー採苗方法の説明を受ける参加者

2. 紀の川市産業まつりでオーガニック弁当を販売

11月26日紀の川市産業まつりにおいて、那賀地方有機農業推進協議会（以下、那有協）は紀の川市オーガニックビレッジ準備会とともに、地域の有機農産物を使用したオーガニック弁当の販売を行った。

本取組は、令和5年7月25日に紀の川市オーガニックビレッジ準備会が設立されたことを受け、紀の川市民への有機農業及び有機農産物の啓発を目的に実施された。弁当には那有協会員が生産した有機農産物を使い、ジビエミートボールとさつまいもコロケの2種類の弁当、合計80食を用意した。1食1,000円と他の飲食物に比べて高めの設定ではあったが、会員の熱心なPRもあり、お昼過ぎに完売した。

那有協では併せて、有機農産物の販売も行い、一般消費者との交流と有機農業・有機農産物の啓発を行った。



地域の有機農産物を使った弁当



有機農産物の販売

3. 紀の川市環境保全型農業グループが地域内研修会を開催

11月30日、紀の川市環境保全型農業グループでは、会員の取組を紹介する研修会を開催し、会員13名、関係機関2名の参加があった。

まず、もも栽培と六次産業化に取り組む藪本周也氏から、六次産業化に取り組むことになったきっかけや、労働力確保、宣伝方法などについて説明があり、話を聞いた会員からは原材料確保やメニュー開発、今後の展開など多くの質問が出された。

次に、農福連携と農産加工に取り組んでいる中原力哉氏から、福祉事業所における農業生産や農産加工の取組事例について、また農産加工OEMの紹介など話があった。

中原氏からは、『加工品を作りたい』という相談は多いが、小ロットだと売り方も難しい。出口の部分を考えずに、安易に加工したら赤字を抱える」と加工を始めるにあたっての注意点についても話があった。

他の会員の取組を知ることで、今後の農業経営の参考になることを期待する。



六次産業化について（藪本氏）



農福連携・農産加工について（中原氏）

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校でつるし柿作り体験を実施

伊都地方特産のかきの美味しさを知ることにより、地域農業への理解を深めるとともに、地産地消の推進を図るため、伊都地方農業振興協議会（伊都管内の市町、J A、農業共済、振興局で構成）では、平成 13 年度から小学生を対象にかきの体験学習を行っている。11 月は、管内及び和歌山市の 16 校の小学校において、641 名の児童を対象にかきのお話しとつるし柿作り体験を実施した。

かきのお話しでは、和歌山県が日本一のかき産地であることや、かき農家の作業、加工・流通等について、クイズを交えながら説明し、つるし柿作り体験では、渋柿の皮むき、柿をつるす作業を行った。



かきのお話し



つるし柿作り体験

2. 第 15 回 大収穫祭 IN 九度山でかきを P R

11 月 11～12 日、道の駅「柿の郷くどやま」芝生広場において行われた「第 15 回大収穫祭 IN 九度山」に伊都地方農業振興協議会（伊都管内の市町、J A、農業共済、振興局で構成）が参加し、「カット柿」の試食と柿料理のレシピ集等を配布、かきの消費拡大活動を行った。

本イベントは九度山町の名産品である「富有柿」の P R を目的に開催されており、実行委員会の会長は、富有柿の生産者で九度山町農業士会会長の井上靖雄氏が務めている。地元農家による「富有柿」の直売や九度山町の各グループから農産加工品の販売が行われ、両日とも午前中には、ほとんど完売するほど盛況であった。また、真田幸村ゆかりの地として交流のある長野県上田市産のりんごの直売も行われ、県外からの観光客も多く来場した。



地元農家による「富有柿」の直売



かきの消費拡大 P R

3. 各農業団体が橋本市まつせ・はしもとで地域農産物をPR

11月18～19日、サカイキャニングスポーツパーク（橋本市運動公園）で開催された「第17回まつせ・はしもと～柿まつり2023～」に橋本市生活研究グループ連絡協議会（会長：栗林照代氏）、橋本市4Hクラブ（会長：曾根嘉人氏）、高野山麓農産物産地化協議会（会長：土井清美氏）、伊都地方農業振興協議会（会長：福岡剛士氏）が参加し、地域農産物のPRを行った。

生活研究グループは、手作りこんにゃく、草餅、金山寺みそなど農産加工品を販売し、4Hクラブは、かき、温州みかん、はくさいなど農産物の販売、高野山麓農産物産地化協議会は、高野山麓精進野菜の販売を行った。また、伊都地方農業振興協議会では、柿料理レシピ集等の配布やパネル展示、カット柿の試食を行い、かきの消費拡大活動を行った。



伊都地方農業振興協議会による
かきのPR

4. 高野山麓精進野菜出荷目揃え会が開催

11月27日、橋本市民会館において高野山麓精進野菜の出荷目揃え会が橋本市主体で開催され、生産者及びJA、振興局併せて12名が参加した。目揃え会には、生産者が栽培しただいこん、かぶ、キャベツ等を持ち寄り、市担当者の説明のもと、出荷基準の確認を行った。

参加者からは、「茎ブロッコリーの規格」、「袋など出荷資材のサイズ」等の質問があり、それぞれの内容を協議し、高野山麓精進野菜の出荷基準の一部を修正して対応していくこととなった。

当課では、今後も関係機関と連携して、栽培講習会等を通じて生産拡大を支援していく。



目揃え会の様子

IV 有田振興局

1. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）の児童が米づくり体験を振興局長へ報告（表敬訪問）

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会が主催する「田んぼの学校」の校長である山崎佳彦氏の指導のもと、毎年アイガモ農法による米づくりに取り組んでいる。11月8日、糸我小学校5年生の代表児童2名が、有田振興局長を表敬訪問し、1年間の農業体験の報告を行った。

10月6日に田鶴小学校5年生（21名）と合同で行った稲刈り体験について、「収穫は大変で、お米1粒1粒を無駄にできないと思った」等の感想を述べた後、振興局長へ収穫したお米を贈呈した。

その後、児童から「アイガモの世話を交代で行い、大変だったが、初めて育てたので、新鮮な体験だった」、「公民館で米の販売を行ったが、売れ行きがよく、地域の皆さんに自分達が作ったお米を食べてもらえて嬉しかった」、「他学年や他の学校の児童とも、農業体験を通じて交流ができた」と報告や感想が述べられた。振興局長は、児童に向け「食べ物を大切にするというSDGsに繋がる活動だ。一年を通じて命や地域の支えのありがたさなど、たくさんの事を学んだと思う」と感想を述べた。



児童代表、山崎校長らによる振興局長表敬訪問



稲刈り体験

2. 阪和自動車道吉備湯浅PAにおいて「有田みかん」及び「日本農業遺産」をPR

有田地方の4市町とJA等で組織する有田地域農業振興協議会と有田みかん地域農業遺産推進協議会は、11月4日、吉備湯浅パーキングエリア(上り)において、有田みかんと「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」の日本農業遺産認定のPRイベントを開催した。

パーキングエリアでは、県内外から訪れた方に向け、日本農業遺産認定パネルの展示や説明動画を放映し、有田みかんとPRチラシを配布した。今年は、天候にも恵まれ

高品質なみかんに仕上がっており、みかんを食べた方からは「とても甘い」、「どこで買えますか」といった意見が寄せられ好評を頂いた。1日を通して約1,000名に対してPRを行った。



ポスター等の展示



有田みかんの配布

V 日高振興局

1. みなべ梅郷クラブと西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が合同現地研修会を開催

11月6日、みなべ町西本庄・東本庄のうめ苗木栽培園において、みなべ梅郷クラブと西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会が合同で苗木栽培に関する現地研修会を開催し、両クラブから合わせて7名が参加した。

参加者に対し園主から、苗木の接ぎ木処理の方法、接ぎ木後から出荷までの管理等について説明があり、参加者からは「苗木の施肥、かん水はどのようにすれば良いか」といった質問や「自分たちで苗木を作ることが出来ればコスト減と品質・供給の安定に繋がる」といった意見が聞かれた。



うめ苗木の研修会（みなべ町）

2. うめ「南高」の低樹高化技術による省力化現地研修会（せん定）を開催

農業水産振興課では、うめ研究所、JA紀州等と連携し、うめ「南高」の低樹高化技術（カットバック処理）による青梅生産性の向上に取り組んでいる。

11月20日、うめ生産者を対象とし、カットバック+摘心処理樹のせん定講習会を日高川町の園地で開催し、17名が参加した。

行森普及指導員から、参加したうめ生産者に対し摘心処理を実施した箇所へのせん定方法について電動バリカンなどを使用し実演指導した。参加者からは「摘心処理した着果枝はどの程度切れば良いのか」といった質問や「通常の樹のせん定より徒長枝が少なく、省力的なので導入したい」といった意見が聞かれた。

来年は、摘心処理講習会を4月（1次）及び5月下旬（2次）に、カットバック処理及びせん定講習会を11月下旬頃に開催する予定である。



カットバック+摘心処理樹のせん定講習会（日高川町）

3. 環境保全型農業栽培技術現地研修会（オープンセミナーin 日高）を開催

11月24日、和歌山県環境保全型農業推進協議会（会長：県農林水産部長）が主催で、うめの有機栽培に取り組まれている（有）紀州高田果園（代表取締役：高田智史氏）のエコ実証モデル園において現地検討会を、みなべ町役場庁舎内で各参加者による意見交換会を行った。現地検討会では、園地見学をしながら、高田氏からモデル園における有機栽培の概要説明を受け、意見交換会では、振興局司会進行のもと、3つのテーマに沿って参加者同士各々意見を交わした。

参加者からは「有機栽培を含めた環境保全型農業が慣行栽培とともにうめの栽培方法の選択肢の一つとして一般的になることが望ましい」との声があった。



現地検討会



意見交換会

4. 日高地方農業士連絡協議会リーダー研修会を開催

11月24日、日高地方農業士会（会長：清水俊夫氏）では、農業士相互の研さんと親睦を図るため先進地研修を実施し、17名の参加があった。

今回はJAならけんが経営する「まほろばキッチン櫃原店」と、「タキイ種苗研究農場」で研修を行った。

「まほろばキッチン櫃原店」は、全国最大級の売り場面積を有する農産物直売所を中心に産直レストラン、フードコート等で構成されており、農産物直売所を見学した後、産直レストランで昼食をとった。

「タキイ種苗研究農場」では、研究農場の取り組みや育種の方向性など説明を受けた後、約70haにも及ぶ栽培ほ場で野菜を見ながら品種特性などを研修した。会員からは、現在の育種が機能性や耐病性が重視されていることなどがわかった等の感想がでた。



タキイ種苗研究農場

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【持続的なうめ産地の発展】

～ムカデ整枝+摘心処理樹のせん定研修会を実施～

うめのムカデ整枝+摘心栽培実証園（田辺市新庄「南高」13年生）にて、11月14日にせん定研修会を開催し、生産者及び関係者合わせて11名が出席した。

ムカデ整枝は、苗木定植時に主幹を斜めに植栽し、低樹高の1本主枝として仕立てる技術のことで、樹容積が小さくコンパクトであるため、計画密植により早期成園化が期待できる。

竹中普及指導員が、太い立枝を間引くことや、着果過多を防ぐために長果枝は短く切り返すこと、樹高を低くし、次年度の摘心処理をスムーズにするため、高さを揃えて切り戻すことなどをポイントとして実演した。参加者の中には今後導入を予定している農業者もあり、熱心に耳を傾けていた。



せん定の実演

2. 女性農業者セミナーを開催

11月21日、田辺市中辺路町において、農業士会女性部会員及び生活研究グループ員24名の参加により女性農業者セミナーを開催した。

今回は、研修内容を検討する中で、「紀州の特産品でありながら、よく知らない備長炭について学びたい」との声があがり、中辺路町で備長炭やその加工品を販売する有限会社エコライフ代表取締役の片山啓氏に講師を依頼した。

まず、片山氏が運営する一棟貸しの宿「熊野中辺路峰の宿 Mine Own House」において、備長炭の特徴や様々な活用方法について話を聞いた。参加者は、備長炭のすばらしさや価値に触れ、驚きの声や質問が相次いだ。

その後、作業場で一人ずつ備長炭のなた割りを体験した。割った備長炭は、「さっそくご飯を炊くときに使いたい」などの声が聞かれた。



備長炭の活用方法についての講話

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【半世紀を迎えた“くろしお苺”産地の体力強化】 ～イチゴハダニ類の天敵防除実証ほを設置～

11月28日、くろしお苺生産販売組合(会長：松出真紀氏)は、いちごの天敵(カブリダニ)を利用したハダニ類の防除実証ほを設置した。

いちごの主要害虫であるハダニ類は化学農薬抵抗性の発達が問題となっており、化学農薬とそれ以外の方法を併用した防除方法の導入が必要となっている。

当日は、農業水産振興課岩橋普及指導員から当面の管理方法、散布できる農薬の説明を行った後、園主の松出氏が天敵を放飼した。

今後、実証ほのハダニ類と天敵の生息数を調査することで天敵の効果を確認し、現地研修会などを通じて地域に普及を図っていく。



園主による天敵放飼



天敵(カブリダニ)の放飼

2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会が農産物即売会を開催

11月25日、東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会(会長：安田裕志氏 以下4Hクラブ)が那智勝浦町体育文化会館前で農産物即売会を開催した。

4Hクラブでは、例年那智勝浦町農産物品評会の開催に合わせて、クラブ員がそれぞれ生産した農産物や加工品を持ち寄り、即売会を開催している。

今年は、秋季の高温により、葉物野菜の数が少なくなったが、多くの人が、即売会テントを訪れ、売れ行きは好調だった。クラブ員は訪れた人と会話を楽しみながら、販売物の味や料理の際のポイント等を伝え、地元野菜のPRを行った。



即売会



販売の様子

Ⅷ 農林大学校

1. 1年生のインターンシップ研修

10月23日～11月7日、本校1年生11名がインターンシップ研修を行った。研修先については、事前に学生から卒業後の進路希望を聞き取り、将来に繋がる農業法人や先進的な取組を行っている農家やJAなどに受入をお願いした。非農家出身の学生も多く、実際の農家での栽培管理や出荷調整作業など慣れない環境の中、初めて行う作業にも真剣に取り組み、これからの学校生活の中でも活かすことができる貴重な体験をすることができた。

学生を受け入れてくださった農家・法人の皆様にはこの場をお借りして改めて感謝いたします。



みかん園でお世話になった方と



たまねぎ栽培予定園でお世話になった方と

2. 第4回農林大祭を開催

11月25日、学生自治会が中心となって農林大祭を開催した。この祭りは実りへの感謝と学校紹介や新鮮な農産物の販売を通じて地域のみなさまとの交流を深めることを目的として開催している。今年度は、4年ぶりの開催となり、テーマは「帰ってきた和農林大～4年越しのフェスティバル～」であった。

内容は、学生や社会人課程の研修生が丹精込めて育てた農産物の販売、学校紹介、模擬店、ビンゴ大会や餅まきなどを実施した。学校紹介では、学生が果樹・野菜・花きの各ほ場を説明して案内した。当日は、晴天に恵まれ、たくさんのお客様、保護者や卒業生に来ていただき各コーナーが賑わった。



農産物の販売

IX 農林大学校就農支援センター

1. 令和5年度第2回UIターン就農相談フェアを開催

11月12日、和歌山県JAビル（和歌山市）で第2回UIターン就農相談フェアを開催した。

今回、県相談ブースをはじめJA関係、各市町、わかやま移住定住支援センターなどを含む、10団体12個の相談ブースを設け、県内外から26名の相談者が参加した。相談者からは「農地を借りたいがどうしたらよいか」、「栽培技術は何処で学べるのか」、「販路はどのように確保すれば良いのか」などの質問が寄せられた。

また、相談フェアと同時に新規就農セミナーを開催した。過去に農林大学校社会人課程の研修を修了し、紀の川市で果樹と野菜を栽培されている方を講師に招き、“就農までの経緯”、“就農して良かったこと・苦勞したこと”などについて話を聞いた。参加者からは「就農に向けて具体的な話が聞けて良かった」、「成功するには人との出会いが大切だと思った」などの声が聞かれた。

次回と同フェアは2月18日にJAビルで開催予定。



相談ブース



新規就農セミナー

X 経営支援課

1. 普及指導員に対する新技術習得研修を実施

経営支援課（農業革新支援センター）では、県内主要果樹に関する最新の試験研究についての知識や栽培技術の習得を目的に、果樹関係の3試験場所に依頼して普及指導員に対する研修を開催している。11月29日に、果樹試験場かき・もも研究所においてかき、ももに関する研修を実施し、9名の普及指導員が参加した。

研修では、かき、ももの整枝・せん定技術について、それぞれ熊本主任研究員、有田主任研究員を講師に基礎から学んだ。その後、室内に移動し、かき、ももの新品種特性や栽培技術試験、病虫害試験について、各担当研究員の講義を受講した。

今後、12月に果樹試験場うめ研究所でうめに関する研修を、来年2月に果樹試験場でかんきつに関する研修を実施し、普及指導員の栽培技術や知見の習得に努めていく。



整枝・せん定の実技研修



座学による試験研究内容の講義

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489